

2015年 1月 21日

## 須崎の津波対策

—犠牲者ゼロのための道程—

この十年の歩みと今後の展望

須崎市津波防災アドバイザー  
長野 正孝

■ 私は、なぜ、須崎に来たか？ なぜ、十年続いたか？  
三つの理由がある

■ 最初驚いたこと！  
半世紀前の避難と決め事、遵守、良くも悪くも「上意下達の世界」

■ そして、須崎はどう変わった？  
職員・市民が考えるようになった。そして・・・・

■ 分かった須崎の津波の特徴  
同じところが、同じように被害 ⇒ 地形と漂流物

■ 起こった問題「知と権威」の対立

権威主義は合理的な判断を拒む

津波対策の歴史は浅く「権威」がない⇒想定津波で支配

想定津波は根本的な対策には結びつかない⇒渋滞・火災対策

診断がない検査・投薬

須崎は独自に考えた

■ 人がつくる災害をどう無くす？

四つのキーワード 地域診断、小心でなく細心

ルールがない鬼ごっこ

■ 2010年頃から須崎は考えて対策を行ってきた

問題解決（診断）できる人を育ててきた

権威より思考を大切にするようになった

現象が分かって手段を選ぶ！（今までは最初に手段があった）

漂流物対策施設の実験工事

訓練を大切にし、救命胴衣を配布するなど現場重視

市内部の縦横のネットワーク PT など組織づくり

中間避難施設を無くし山に逃げる 90本の避難路

桐間・多ノ郷地区連絡協議会をつくった

クルマでの避難を考えるークルマを残すと火災が増える

■ 残されている課題

現実に即した避難訓練「鬼ごっこ」

富士が浜の水門閉鎖

防災施設の維持管理

多ノ郷・桐間の企業の漂流物対策と火災対策

土讃線で止め、西崎町、妙見町に被害が及ばない

山手町のクルマ渋滞

消防・警察の機能

■ 訴訟されないように

現在の想定津波で考えるとき、対策がないのに訴訟を受ける。

1. 知らなかったとは言えない一起きることが予見し対策をする
2. 客、従業員を速やかに避難させる
3. 間違ったところに誘導しない、避難しなかった
4. 避難の時間を間違える

■ 最後に